

## 一般的な GCMS 装置の起動フロー<sup>\*1</sup>

-注入口の確認<sup>\*2\*3</sup>-

↓ セプトラム ライナー o-リング ゴールドシール

-GC へのカラムの取り付け<sup>\*4</sup>-

↓ カラムの詰まり確認 フェラルからのカラム取り付け長さ<sup>\*5</sup> カラムナットの締まり

-使用ガスの確認-

↓ ガスの元栓を開く 使用ガス発生装置の電源オン<sup>\*6</sup> (ご使用の場合)

-PC の起動-

↓

-GC の起動<sup>\*7\*8</sup>-

↓ カラム出口からのガスの確認<sup>\*9</sup>

-MS へのカラムの取り付け-

↓ カラムの長さ確認<sup>\*10</sup>

-MS 起動前確認-

↓ ロータリーポンプのオイル残量 サイドプレート o-リング

-MS の起動<sup>\*11</sup>-

↓ サイドプレートを押しながら起動 ターボポンプスピード 100%になることを確認\*

-コントロールソフトウェアの起動<sup>\*12</sup>-

↓

-使用メソッドの読み込み-

↓

-安定待ち-

↓

-使用開始-

オートチューニング リークチェック



## Agilent Technologies

- \*1：こちらのフローは一般的な GCMS (EI システム) のシステムを想定しています。GCMS 以外に前処理装置、外部サンプラーをお使いの場合には、各装置のマニュアルを参照ください。またお客様 SOP にて手順を決められている場合にはそちらに従って操作してください。
- \*2：注入口の種類ごとに使われる消耗品も異なります。
- \*3：交換手順は、ユーザーマニュアル・基本操作マニュアル等をご参照ください。
- \*4：カラムは必ずしも毎回取り外す必要はありません。
- \*5：注入口の種類ごとにカラムの取り付け長さは異なります。ユーザーマニュアルを参照ください
- \*6：各装置の起動手順は、各マニュアルに従ってください。
- \*7：GC は前回電源を切る際のパラメータを読み込んで起動します。前回温度をかけたまま電源を切っていた場合には、温度が上がり始めます。
- \*8：弊社 ALS(Auto Liquid Sampler 液打ちサンプラー)は電源が GC と連動していますので ALS の電源スイッチはありません。
- \*9：ビーカーに少量の溶媒をいれ、カラム出口を溶媒に付けて気泡が出るかを確認します。
- \*10：カラムの取り付け長さは、SS イオン源、Extr イオン源と HES イオン源で異なります。ユーザーマニュアルを参照ください
- \*11：MS は起動すると RP,TP が自動で真空排気をはじめ、イオン源、四重極温度を 100°Cまで加熱します
- \*12：各ソフトウェアは前回最後に読み込んだメソッドを読み込んで起動します